2026年3月期（2025年度）
第2四半期 決算説明会

2025年 11 月 14 日

日本精化株式会社

NFC VISION 2030

「キレイ」のチカラでみんなを笑顔に

Contents

1. 日本精化グループ　事業内容
2. 2026年3月期（2025年度）　第2四半期決算概要
3. 2026年3月期（2025年度）　通期業績予想
4. 資本政策・株主還元について

Contents

1. 日本精化グループ　事業内容
2. 2026年3月期（2025年度）　第2四半期決算概要
3. 2026年3月期（2025年度）　通期業績予想
4. 資本政策・株主還元について

日本精化グループ　事業内容

Nippon Fine Chemical

機能性製品
ビューティケア分野

- 化粧品用リン脂質素材
- 化粧品用機能性油剤
- 生理活性物質
- 天然多糖類
- 化粧品用
ウールグリース誘導体

機能性製品
ヘルスケア分野

- DDS 素材/開発製造支援
- 医薬品中間体
- 薬理・安全性試験
- 医薬品用ウールグリース誘導体

DDS：ドラッグデリバリーシステム

機能性製品
ファインケミカル分野

- 各種酸クロライド
- ペロブスカイト型
太陽電池用素材
- コーティング剤（NSC）
- 樹脂添加物
- 粉末冶金用潤滑剤
- 各種ウールグリース誘導体

環境衛生製品
ハイジーン分野

- フードビジネス（食品衛生用品）
- 医療・介護
（医療衛生用品・介護衛生用品）
- アメニティ
（手洗い石鹸液・手指消毒剤・
公衆衛生用品）

Nippon Fine Chemical

Contents

1. 日本精化グループ　事業内容
2. 2026年3月期（2025年度）　第2四半期決算概要
3. 2026年3月期（2025年度）　通期業績予想
4. 資本政策・株主還元について

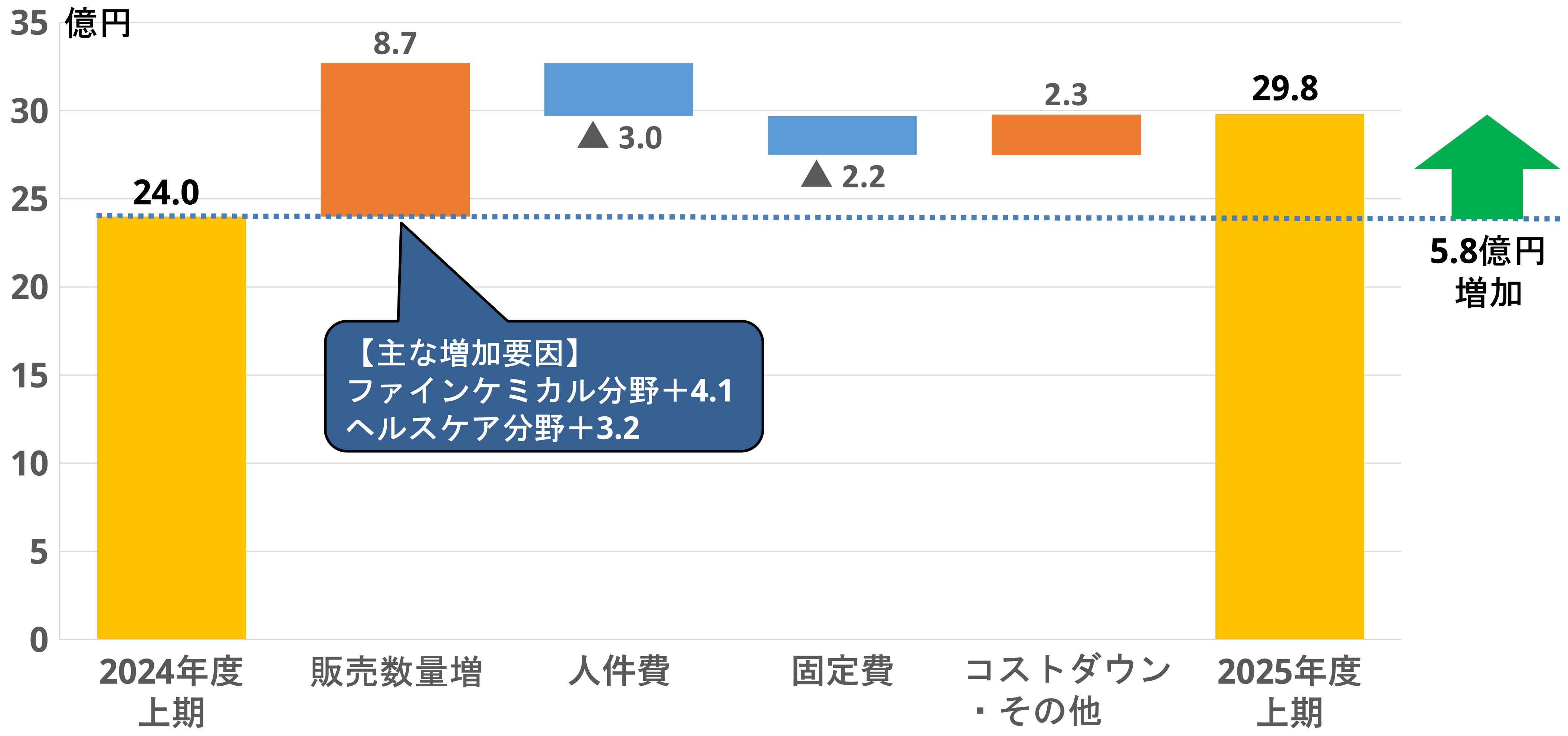
2025年度第2四半期　連結決算概要

	2024年度上期 実績	2025年度上期 実績	対前年増減率	公表予想（*1）	予想比増減率
売上高（億円）	173.8	175.0	0.7%	169.0	3.5%
営業利益（億円）	24.0	29.8	24.2%	26.2	13.8%
営業利益率	13.8%	17.0%	―	15.5%	―
EBITDA（*2）（億円）	30.6	37.2	21.6%	―	―
EBITDAマージン	17.6%	21.3%	―	―	―
経常利益（億円）	25.3	31.0	22.4%	27.0	14.9%
親会社株主に帰属する当期純利益（億円）	17.9	25.1	39.8%	20.8	20.6%
1株当たりの当期純利益（円）	79.7	113.6	42.5%	92.4	22.9%

*1　2025年4月30日公表
*2　EBITDA：　減価償却前営業利益（営業利益＋減価償却費）

2025年度第2四半期　連結決算　営業利益分析

Nippon Fine Chemical



2025年度第2四半期　連結決算　セグメント別概要

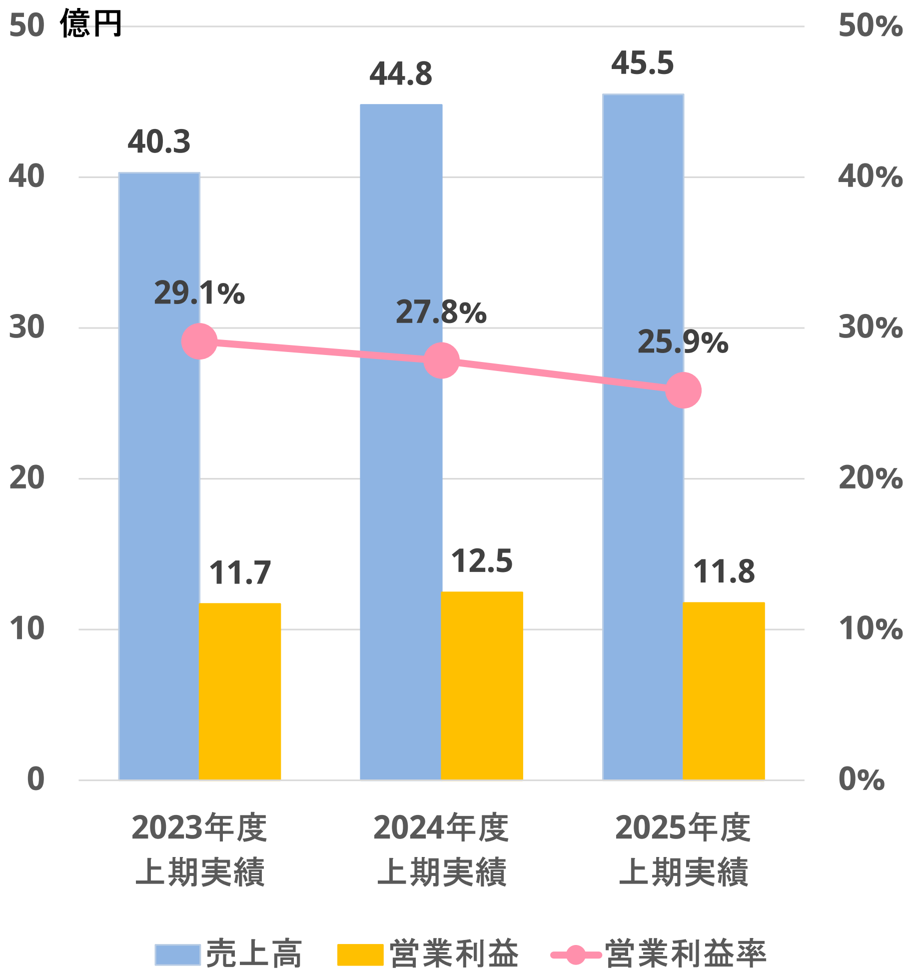
単位:億円	2024年度　上期			2025年度　上期			対前年　差額			対前年　増減率		
	売上高	営業利益	EBITDA	売上高	営業利益	EBITDA	売上高	営業利益	EBITDA	売上高	営業利益	EBITDA
機能性製品	138.5	21.0	27.2	138.6	26.9	33.9	0.1	5.9	6.7	0.1%	27.8%	24.6%
ビューティケア	44.8	12.5	14.0	45.5	11.8	13.4	0.7	▲ 0.7	▲ 0.6	1.6%	▲5.6%	▲3.8%
ヘルスケア	29.3	4.4	8.1	42.2	7.6	11.6	12.9	3.2	3.5	44.0%	73.7%	43.1%
ファインケミカル	25.1	2.2	3.1	29.0	6.3	7.6	3.9	4.1	4.5	15.4%	189.3%	146.6%
トレーディング	39.3	2.0	2.0	21.9	1.2	1.3	▲ 17.4	▲ 0.8	▲ 0.8	▲44.3%	▲39.6%	▲39.2%
環境衛生製品（ハイジーン）	34.2	2.6	2.9	35.2	2.6	2.9	1.1	0.0	▲ 0.0	3.1%	1.8%	▲0.9%
その他	1.1	0.4	0.6	1.2	0.3	0.5	0.1	▲ 0.1	▲ 0.1	4.9%	▲22.4%	▲17.7%
連結合計	173.8	24.0	30.6	175.0	29.8	37.2	1.2	5.8	6.6	0.7%	24.2%	21.6%

機能性製品　ビューティケア

Nippon Fine Chemical

対象品目

・化粧品用リン脂質素材
・化粧品用機能性油剤
・生理活性物質（美白主剤など）
・天然多糖類（シロキクラゲ多糖体、イヌリン）
・化粧品用WG誘導体（ラノリン・コレステロール）



第2四半期までの状況

（＋）化粧品用リン脂質素材：国内主要顧客で増加。
（－）化粧品用機能性油剤：海外向けが在庫調整で減少。
（±）生理活性物質：
　　国内向け美白主剤が減少、海外向け天然多糖類が増加。
（＋）化粧品用WG誘導体：海外向けでラノリンが増加。

＊WG：ウールグリース

機能性製品　ヘルスケア

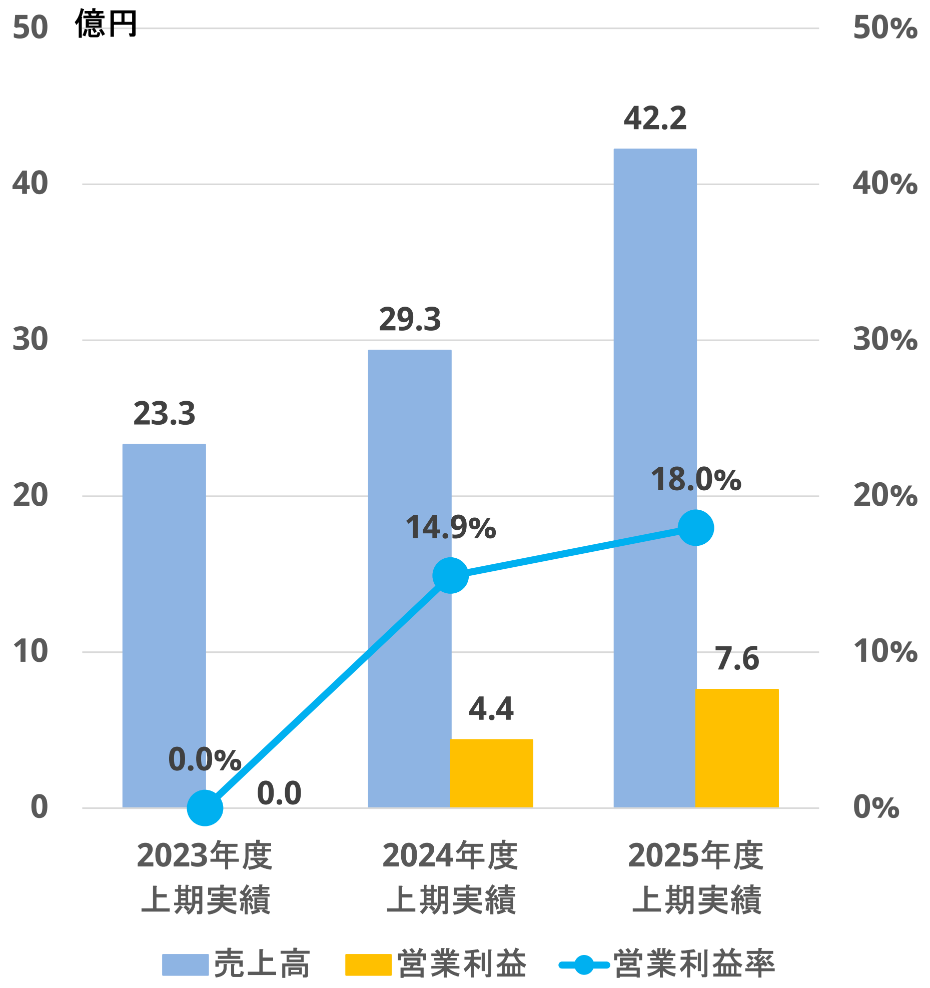
Nippon Fine Chemical

対象品目・サービス

・医薬品用高純度リン脂質
・CDMO開発支援（リポソーム化／LNP化）
・医薬品用WG誘導体（ラノリン・コレステロール）
・医薬品中間体
・薬理・安全性試験（日精バイリス）

第2四半期までの状況

（±）Gilead向け：新プラントが安定稼働（計画通り進捗）。
（＋）医薬品用高純度リン脂質：
　　海外向けで売上好調。新プラントで本格生産開始。
（＋）医薬品用WG誘導体：
　　海外向け医薬品用ラノリン・コレステロールが増加。
（＋）医薬品中間体：スポットの受託案件が収益に貢献。



＊CDMO：Contract Development and Manufacturing Organization:
　医薬品製造開発受託
＊LNP：リピッドナノパーティクル

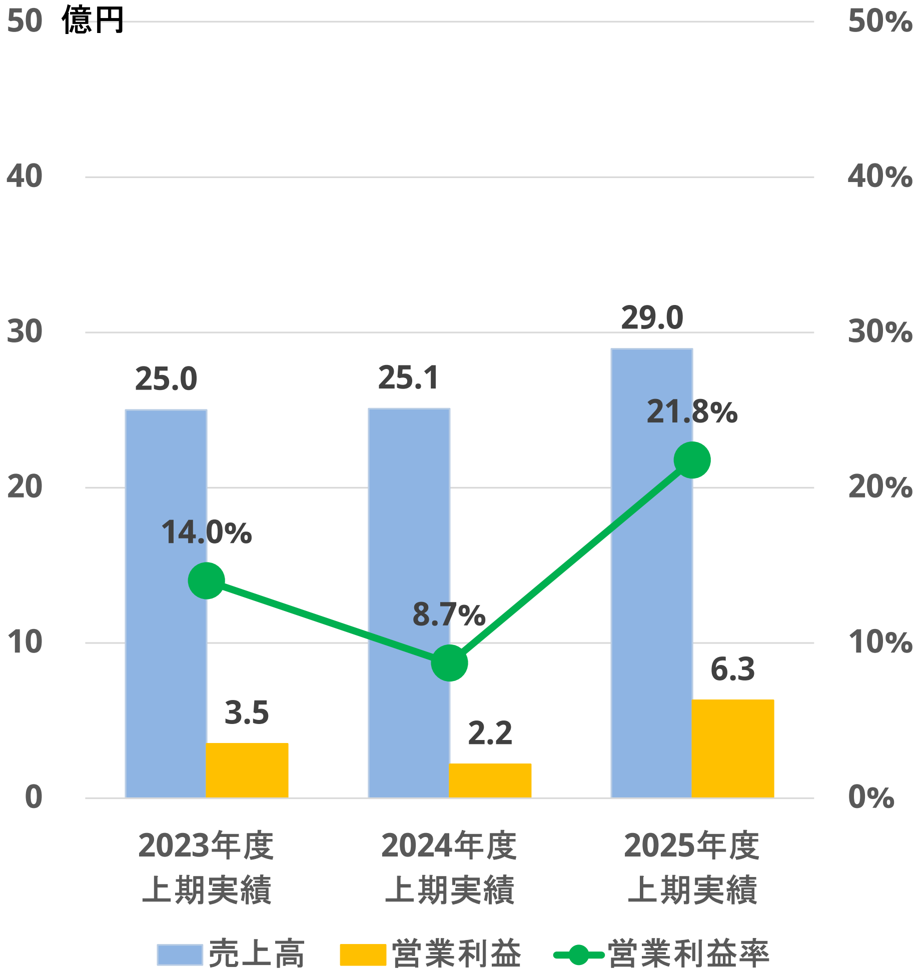
機能性製品　ファインケミカル

対象品目

・電子材料、資源エネルギー用素材（各種酸クロライド）
・ペロブスカイト型（PSC）太陽電池用素材
・樹脂添加物（脂肪酸アマイド）
・各種WG誘導体（飼料用コレステロール）
・コーティング剤（NSC）

第2四半期までの状況

（＋）PSC太陽電池用素材：
　　社会実装に向け量産化検討が着実に進展。
（＋）WG誘導体：工業用ラノリンの増加。
（＋）樹脂添加物（脂肪酸アマイド）：
　　販売数量減も適正価格での販売で増益。
（－）コーティング剤（NSC）：
　　海外向け新製品での拡販遅れ。



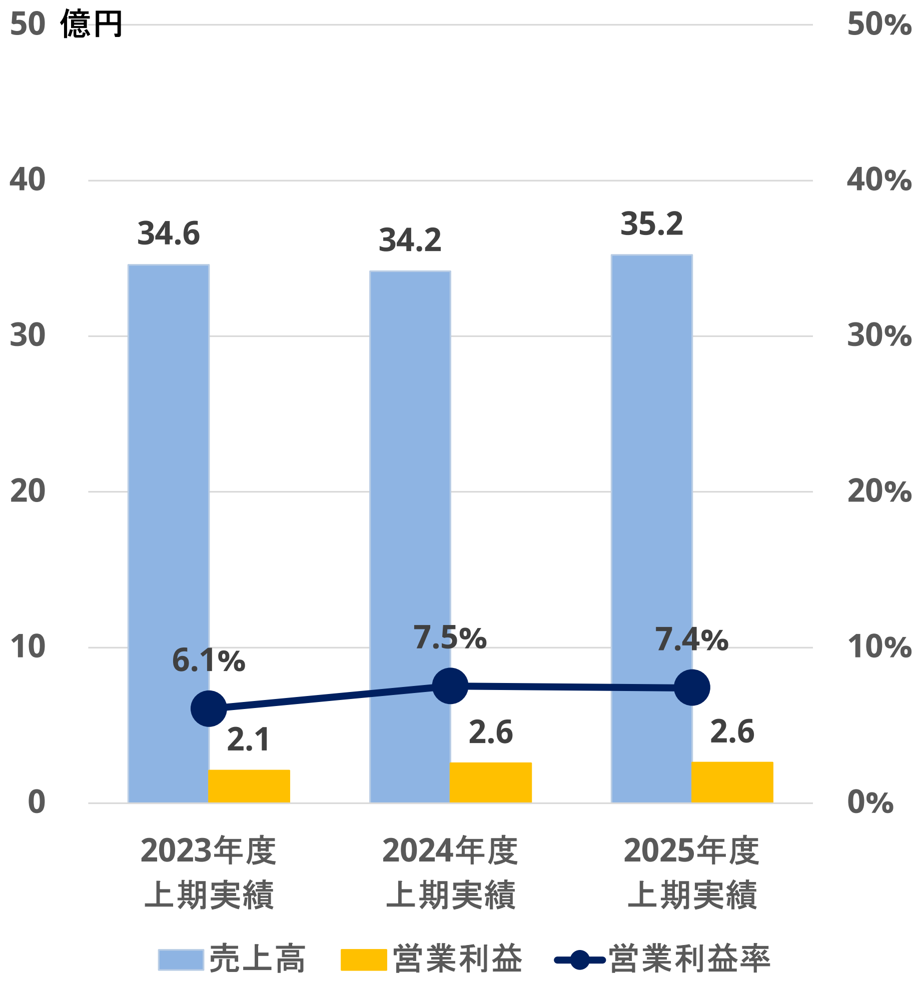
環境衛生製品　ハイジーン

対象品目・サービス

・フードビジネス（食品衛生用品）
・医療、介護（医療衛生用品／介護衛生用品）
・アメニティ
（手洗い石鹸液／手指消毒剤／公衆衛生用品）

第2四半期までの状況

（＋）食品工場向け衛生用品の販売で増加。
（－）食品工場向け新製品（濃縮中性除菌洗浄剤など）の上市遅れ。
（＋）業務用ハンドソープの販売で増加。
（－）感染対策意識の低下で手指消毒剤が減少。
（－）原料価格の高騰。



2025年度第2四半期　連結貸借対照表

Nippon Fine Chemical

勘定科目	2025年9月末残高	前年度末比増減	主な増減要因
現預金	111.2	▲11.8	自己株式取得
売掛債権	89.0	＋6.8	
たな卸資産	85.0	▲7.6	
有形固定資産	153.6	▲2.5	
投資その他資産	128.1	＋15.0	投資有価証券含み増益
その他	28.7	▲2.3	
資産合計	595.6	▲2.4	
買掛債務	31.8	＋1.3	
繰延税金負債	28.0	＋5.2	
その他	36.4	▲17.6	借入金減
負債合計	96.2	▲11.0	
純資産合計	499.3	＋8.6	自己資本比率82.3%
一株当たり純資産	2,259.30円	＋118.72円	

2025年度第2四半期　連結キャッシュフロー計算書

Nippon Fine Chemical

勘定科目	2025年年度上期	主な要因
税引前利益	33.5	
減価償却費	7.4	
運転資本増加	▲6.0	
法人税等支払	▲2.3	
その他	0.8	
営業CF	33.4	
投資CF	▲18.5	有形固定資産取得▲14.8
（フリーCF）	14.9	
財務CF	▲29.3	自己株式取得▲20.6
換算差額	0.3	
現金同等物増減	▲14.1	

2025年度上半期　トピックス

Nippon Fine Chemical

❖中期経営計画の見直し（CIP*投資を含む）を公表（4月）

*CIP: Cosmetic Ingredients Plant（化粧品用機能性油剤プラント）

❖自己株式取得　822,700株／20億円　（取得期間：5月7日～9月1日）

❖自己株式消却　1,550,000株（11月20日消却予定）

❖子育てサポート企業「くるみん」2025年認定取得

❖TCFDレポート2025（6月）

❖EcoVadis社のサステナビリティ調査で「シルバー」評価を獲得（9月）

Contents

1. 日本精化グループ　事業内容
2. 2026年3月期（2025年度）　第2四半期決算概要
3. 2026年3月期（2025年度）　通期業績予想
4. 資本政策・株主還元について

2025年度通期　連結業績予想

Nippon Fine Chemical

	2024年度 実績	2025年度 予想	対前年 増減率	公表予想 （*1）	予想比 増減率
売上高（億円）	356.6	350.0	▲1.9%	342.0	2.3%
営業利益（億円）	49.0	55.0	12.4%	50.0	10.0%
営業利益率	13.7%	15.7%	—	14.6%	—
EBITDA（*2）（億円）	62.5	69.9	11.9%	64.9	7.8%
EBITDAマージン	17.5%	20.0%	—	19.0%	—
経常利益（億円）	52.1	57.3	10.0%	52.0	10.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益（億円）	38.7	45.0	16.2%	40.0	12.5%
1株当たりの当期純利益（円）	172.1	207.5	20.6%	177.8	16.7%

*1　2025年4月30日公表
*2　EBITDA：　減価償却前営業利益（営業利益＋減価償却費）

2025年度通期　業績予想　セグメント別

Nippon Fine Chemical

単位：億円	2024年度　実績			2025年度　予想			2025年度　期首予想			対前年　増減率			対期首　増減率		
	売上高	営業利益	EBITDA	売上高	営業利益	EBITDA	売上高	営業利益	EBITDA	売上高	営業利益	EBITDA	売上高	営業利益	EBITDA
機能性製品	284.4	43.1	55.8	273.6	48.5	62.6	259.6	42.4	56.4	▲3.8%	12.4%	12.1%	5.4%	14.4%	10.9%
ビューティケア	89.4	24.2	27.3	95.0	23.5	27.2	93.0	22.0	25.7	6.3%	▲2.8%	▲0.4%	2.2%	6.8%	5.7%
ヘルスケア	60.5	10.2	17.9	76.0	13.0	20.9	66.0	12.4	20.6	25.6%	27.1%	16.8%	15.2%	4.8%	1.6%
ファインケミカル	56.1	5.1	7.0	58.0	10.0	12.4	56.0	6.0	8.1	3.3%	94.6%	78.3%	3.6%	66.7%	53.8%
トレーディング	78.4	3.6	3.7	44.6	2.0	2.0	44.6	2.0	2.1	▲43.1%	▲44.6%	▲44.1%	0.0%	0.0%	▲0.3%
環境衛生製品（ハイジーン）	69.9	5.2	5.8	74.0	5.8	6.4	80.0	7.0	7.6	5.8%	11.7%	10.0%	▲7.5%	▲17.1%	▲15.9%
その他	2.3	0.6	0.9	2.4	0.7	1.0	2.4	0.6	0.9	6.2%	13.1%	8.2%	0.0%	16.7%	9.0%
連結合計	356.6	49.0	62.5	350.0	55.0	69.9	342.0	50.0	64.9	▲1.9%	12.4%	11.8%	2.3%	10.0%	7.8%

機能性製品　ビューティケア

Nippon Fine Chemical

外部環境

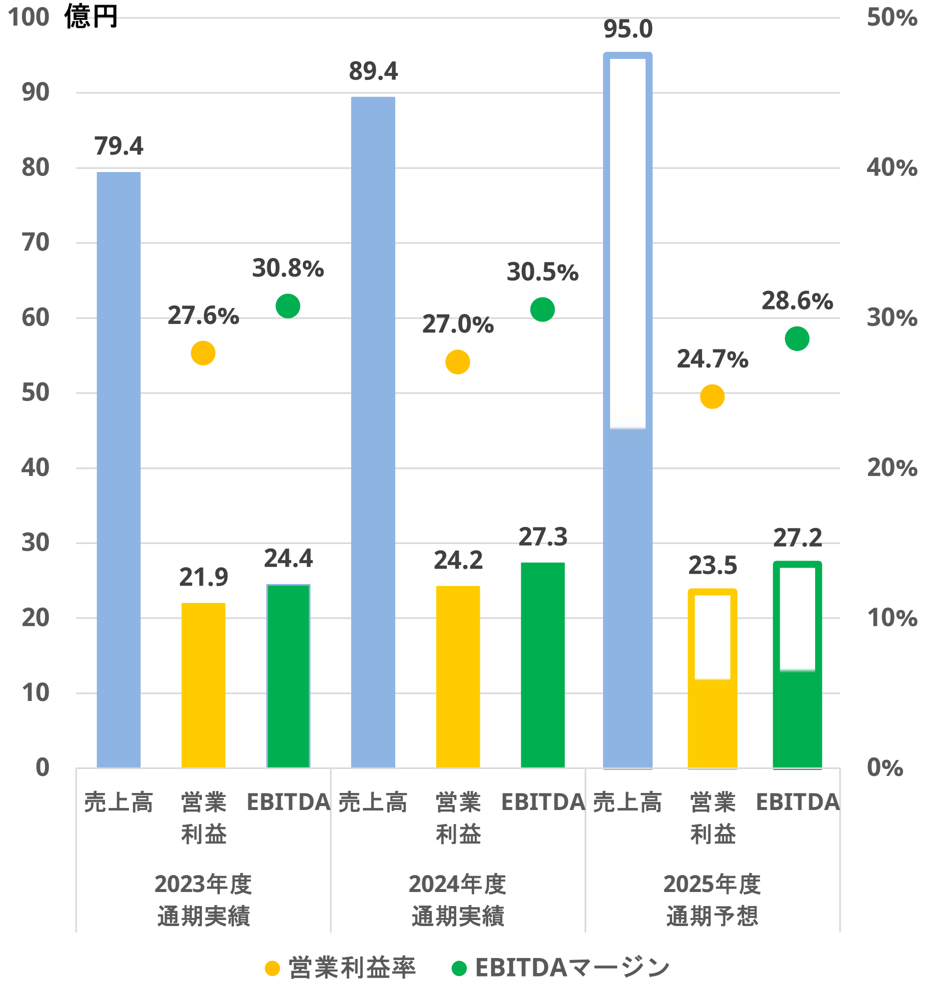
(＋)国内市場の緩やかな拡大、特に高価格帯化粧品の伸長。
(＋)欧米ブランドからのサステナブル素材への需要拡大の継続。
(＋)長期的には化粧品人口の増加でグローバル市場拡大。
(±)中国ローカルブランドのシェア拡大。

下期の見通し

(＋)化粧品用機能性油剤:需要拡大が継続、在庫影響の緩和。
(＋)化粧品用リン脂質素材:国内を中心に需要が回復基調。
(＋)化粧品用WG誘導体:海外向け需要増。
(－)生理活性物質(美白主剤)の売上減。

活動方針

・化粧品用オープンラボで顧客の処方開発をサポート。
・化粧品用リン脂質素材の新規用途開発と拡販を強化。
・サステナブル素材の拡販と更なる認証対応の推進。
・適正価格での販売による収益性改善。
・化粧品用機能性油剤プラント(CIP)建設計画の推進。



機能性製品　ヘルスケア

Nippon Fine Chemical

外部環境

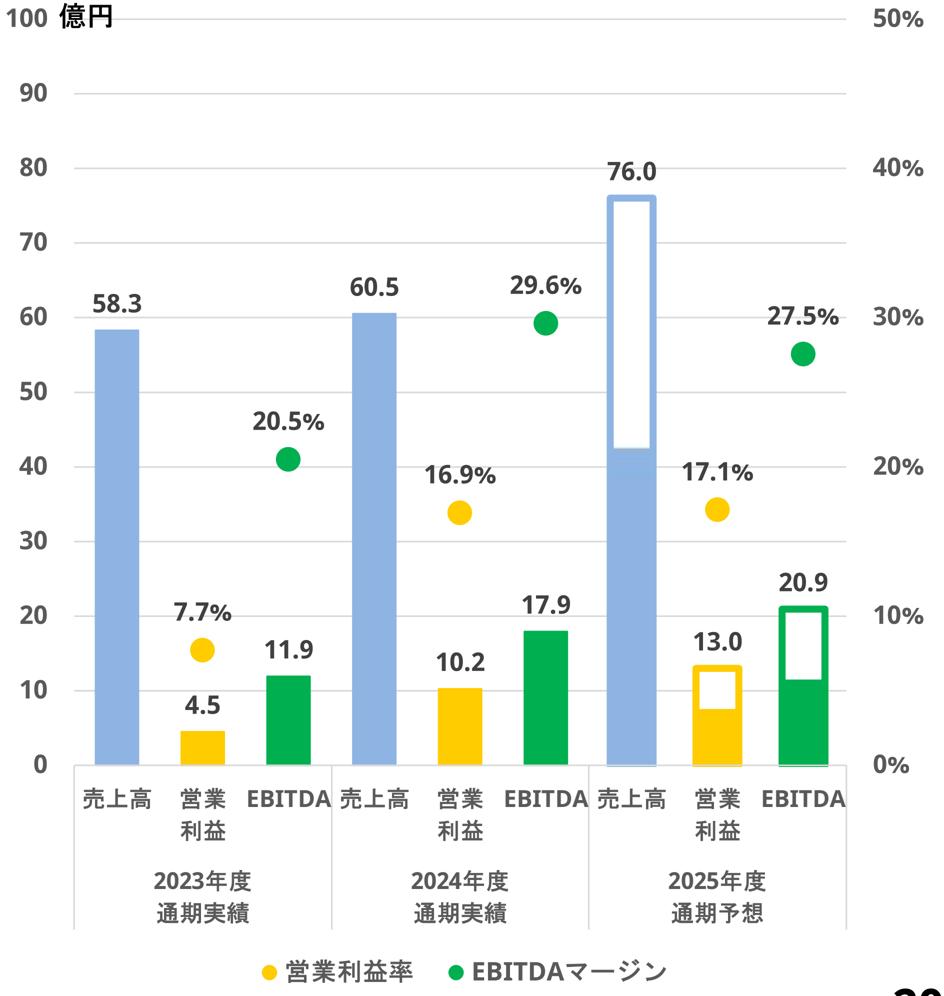
（＋）成長モダリティに当社の医薬品用脂質の応用が可能。
（＋）医薬品開発の分業化、オープンイノベーションの加速。
（－）競合の参入や再編による競争激化。

下期の見通し

（±）Gilead向け：新プラントが安定稼働（計画通り進捗）。
（±）医薬品用高純度リン脂質：新プラントは計画通り稼働。
（＋）医薬品用高純度リン脂質：海外向け販売増。
（＋）医薬品用WG誘導体：海外向けコレステロールで売上増。
（－）医薬品中間体：上期スポット受注の反動により売上減。

活動方針

・医薬品用高純度リン脂質：新プラントでの安定供給体制を拡充。
・湘南ラボでのオープンイノベーションを推進。
・リポソーム化、LNP化のテーマの取込み分業化へ対応。
・医薬品中間体：選択した品目にリソース集中。



機能性製品　ファインケミカル

Nippon Fine Chemical

外部環境

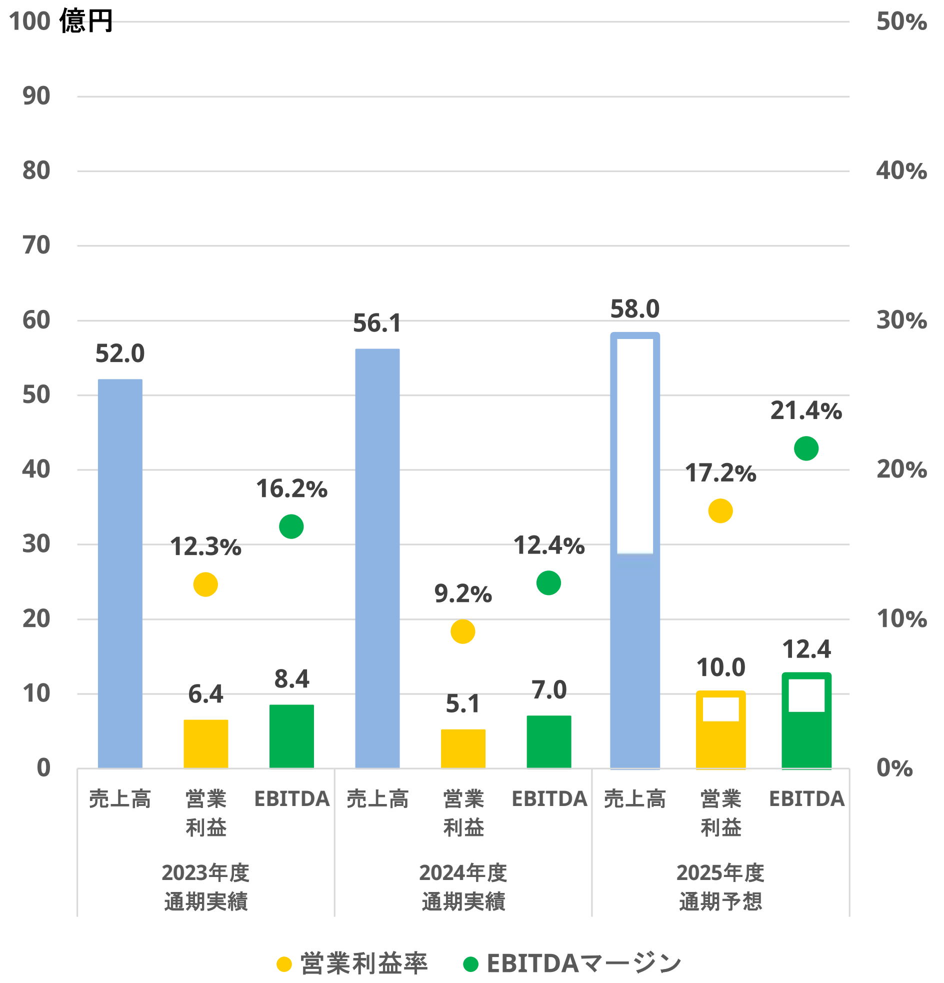
（＋）ペロブスカイト型（PSC)太陽電池用素材：社会実装へ加速。
（＋）サステナブル素材の需要の拡大。
（－）石化プラントの生産規模の縮小。
（－）海外競合との価格競争の激化。

下期の見通し

（＋）PSC太陽電池用素材の社会実装の加速。
（＋）WG誘導体：需要増と生産効率化によるコストダウン。
（＋）脂肪酸アマイド：適正価格での販売で売上増。
（＋）コーティング剤：新製品での顧客獲得で売上増。

活動方針

・PSC太陽電池用素材：社会実装へ量産化体制の検討。
・WG誘導体：販売戦略に応じた効率的生産体制の推進。
・将来のコア事業の育成に向けたターゲット市場へ営業活動強化。
・脂肪酸アマイド：サステナブル社会に貢献する用途の販売拡大。
・コーティング剤：新製品の拡販、海外での売上拡大。



環境衛生製品　ハイジーン

外部環境

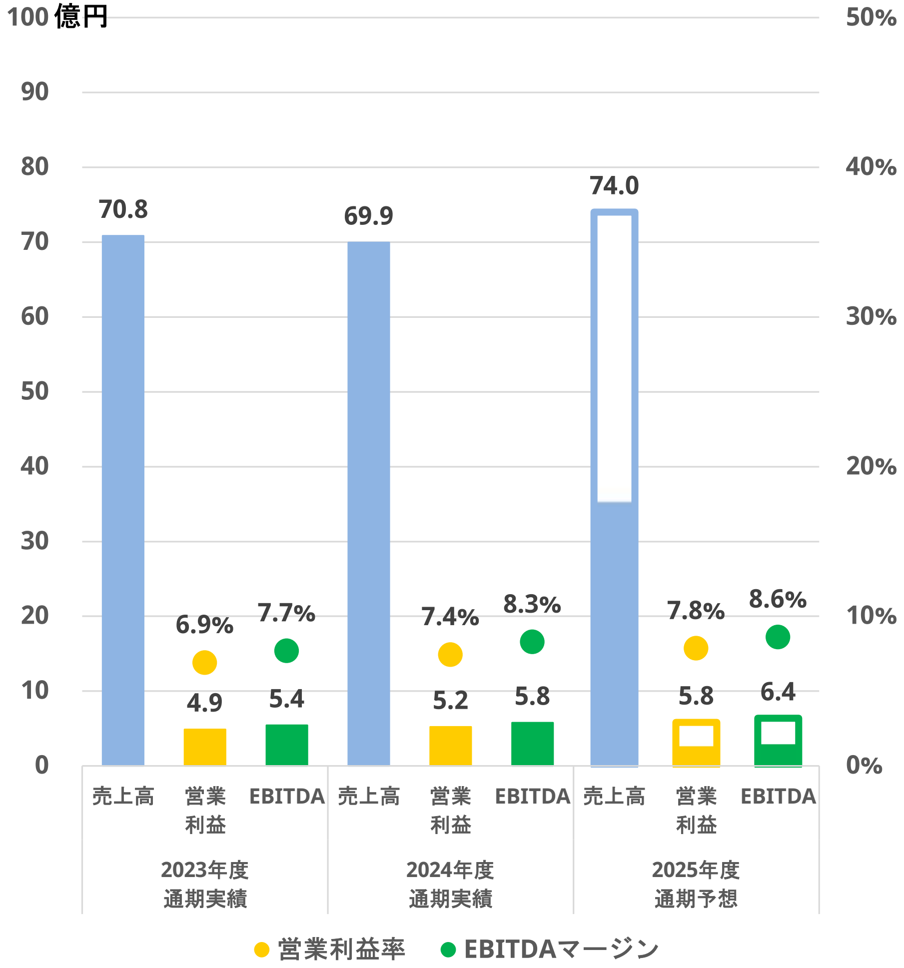
（＋）外食産業の市場拡大に伴う衛生用品の使用増加。
（＋）使用後の医療器具洗浄の業務委託規制緩和。
（＋）介護市場の伸長。
（－）感染対策意識の低下。

下期の見通し

（＋）上期に上市した新製品の寄与。
（＋）サステビリティ対応製品の需要増加。
（＋）価格の適正化、コストダウン等の効果。
（－）原料価格の高騰。

活動方針

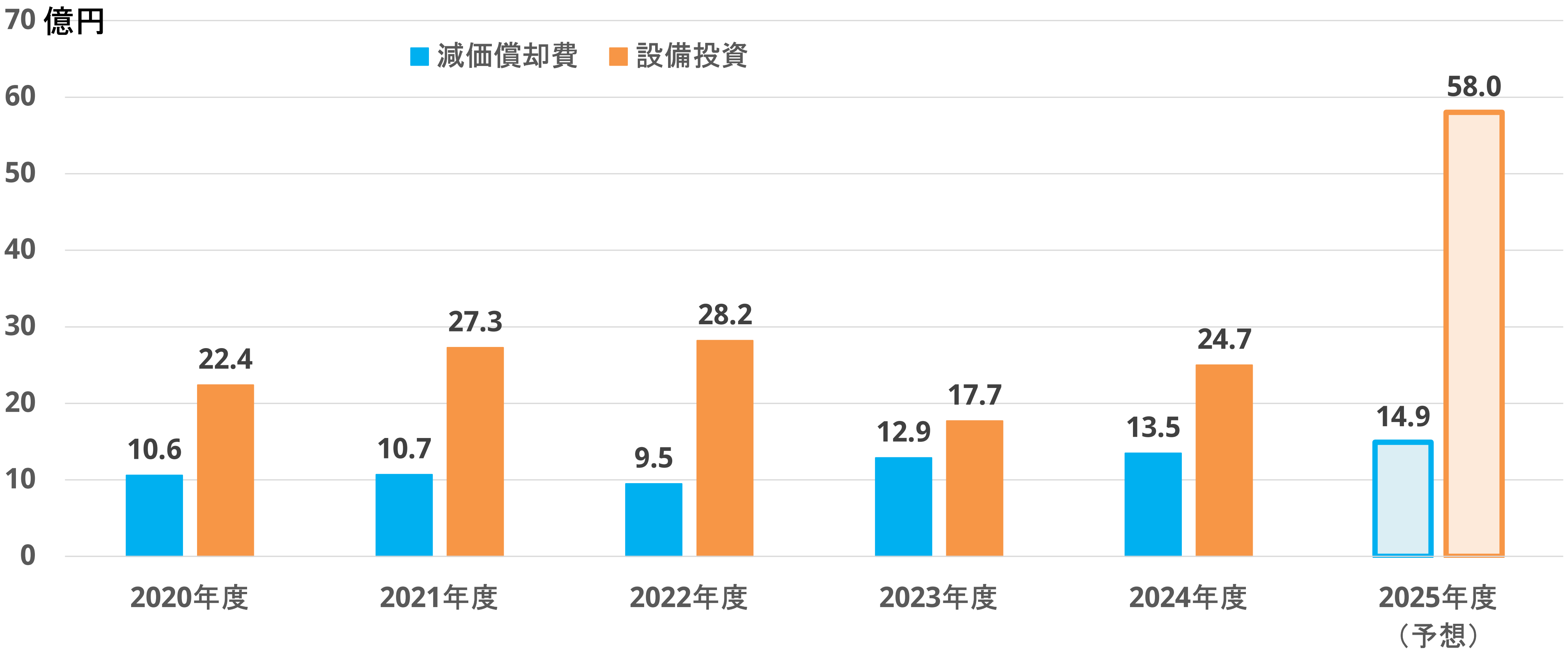
・食品工場向け衛生製品の販売強化。
・医療用衛生用品はSPD活用による効率営業により新規顧客獲得。
・新製品による売上拡大（濃縮中性除菌洗浄剤、他）。
・原料価格高騰に対して適正価格での購入と販売の継続。
・サステビリティ対応製品の研究開発の強化。



＊SPD：Supply Processing and Distribution 院内物流管理システム
　病院が使用する医療消耗品の供給・在庫・加工などの物流を一元管理する方法のこと。

2025年度通期　連結予想　設備投資

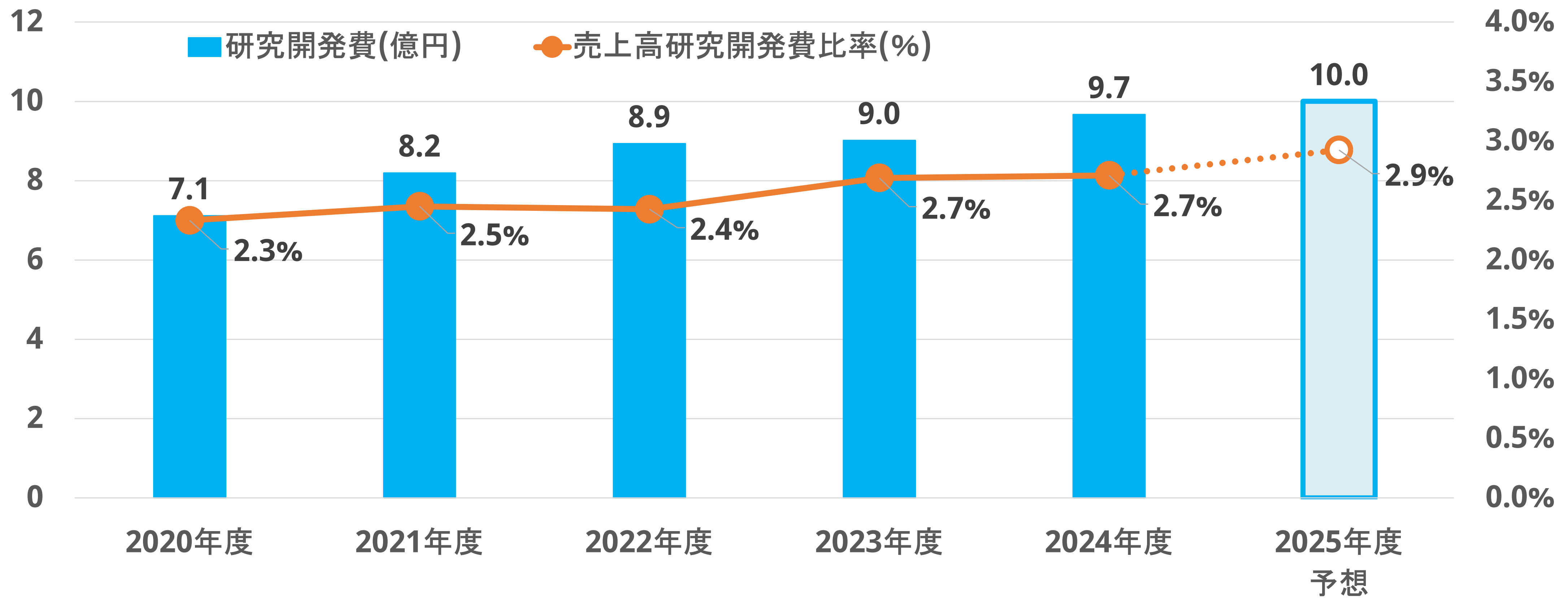
Nippon Fine Chemical



主な設備投資

■2025年度　化粧品用機能性油剤プラント（CIP）新設（2029年稼働予定）

2025年度通期　連結予想　研究開発投資



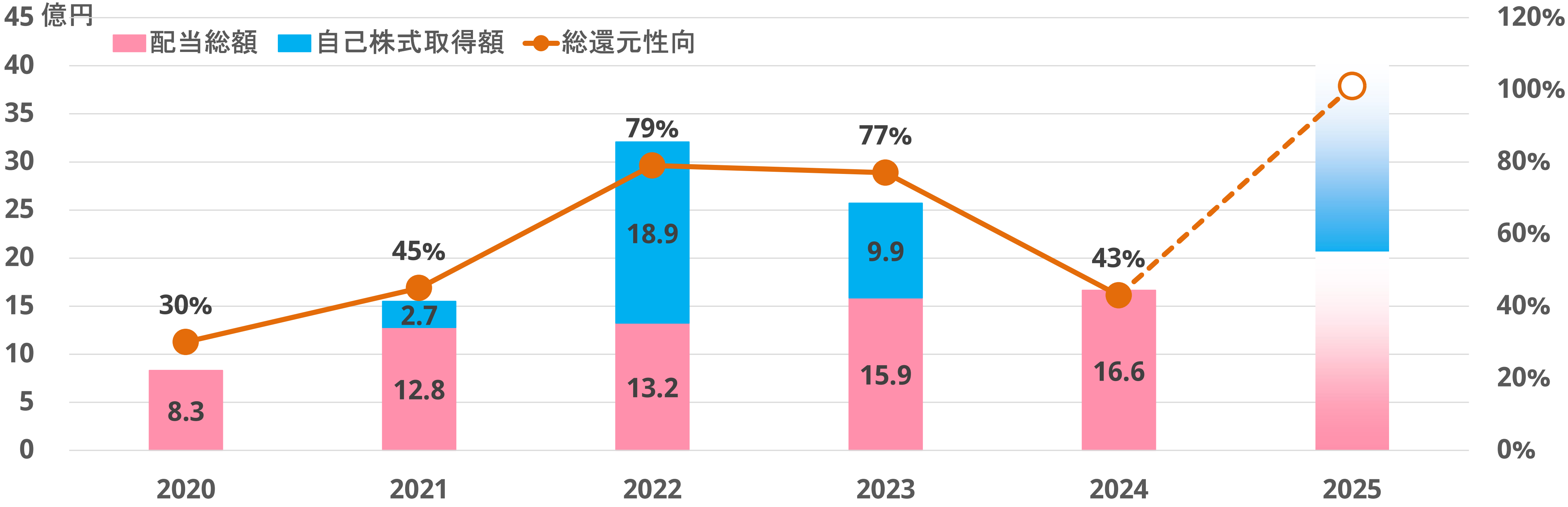
主な重点テーマ
■マテリアリティ実行による生産活動のサステナブル化
■将来のコア技術の創出（フローリアクターの実用化検討）
■オープンイノベーションの加速：　オープンラボ（ビューティケア）、湘南ラボ（ヘルスケア）

Contents

1. 日本精化グループ　事業内容
2. 2026年3月期（2025年度）　第2四半期決算概要
3. 2026年3月期（2025年度）　通期業績予想
4. 株主還元・資本政策について

株主還元・資本政策

Nippon Fine Chemical



	2020	2021	2022	2023	2024	2025
DOE		3.0%	3.0%	3.5%	3.5%	4.3%
一株当たり配当額（円）	35	54	57	70	74	94（予想）

・自己株式の取得：822,700株／20億円 （取得期間2025年5月7日～2025年9月1日）
・総還元性向： 2023-2026年度 4ヶ年平均50%以上に設定
・政策保有株式比率： 2026年度までに17%以下に設定

本資料に記載している業績予想等に関する記述は各資料の作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

実際の業績は、各種要因により、これらの業績予想とは異なる結果となり得ることをご承知おきください。